

令和6年度 年間学習指導計画案

科目	地理総合	単位数	2単位	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース
使用教科書	高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）		副教材等	2024 新地理要点ノート（啓隆社）	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解している。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第1部 地図でとらえる現代社会 第1章 地図と地理情報システム ・地球上の位置と時差 ・地図の役割と種類 第2章 結びつきを深める現代社会 ・現代世界の国家と領域	・位置情報の基礎として、球体の地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。 ・経度の違いから時差の概念を捉え、時差計算の技能を身につけ、球面として成り立つ世界認識をもつ。	○			地球上での位置、太陽高度変化、緯度経度のしくみ、時差の計算を理解する。	
				○		球体の地球の観点から、図を活用して地球上の位置や時差を捉え、説明できる。	
					○	球体の地球の把握に向け意欲的に探究し、作業や考察に取り組もうとしている。	
5	・グローバル化する世界 第2部 国際社会と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 ・世界の地形と人々の生活	・世界の大地形がプレートテクトニクスとプレート境界と関連し、変動帯では大地形を形成し、地震や火山が生じることを理解する。 ・河川、海岸など外的営力による地形形成と広がり、地形に対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について、写真や地形図などの資料を通して考える。	○			地形に関する知識と世界の地形分布の特徴、地形図の等高線や地図記号を判読し、地形や土地利用を捉えることができる。	授業態度 学習プリント ノート 課題 定期考査
				○		世界の地形をプレートテクトニクスと関連づけ、地形と比較して考察できる。 生活する地域の地形を、資料などから捉え、生活との関連を考察できる。	
					○	地形図や分布図、写真、模式図の読み取りや作業に意欲的に取り組み、地形と生活との関連を捉えようとしている。	
6	・世界の気候と人々の生活	・大気や海流が循環するしくみを捉え、その影響を反映した気候の地域性があることを理解する。 ・降水量と気温の特徴からケッペンの気候区分を捉え、植生や農業など生活文化に影響することを理解する。	○			大気の大循環と海洋、大気のしくみと各気候の特徴を理解し、資料から各気候と植生の関連、人々の生活を読み取り、整理できる。	
				○		世界規模の大気のしくみと人間生活との関連を資料から考察し、各気候による景観の違いを捉え、生活への影響を考察できる。	
					○	資料の判読を通じて、世界各地の気候や生活文化を意欲的に探究し、気候資料の作成に意欲的に取り組んでいる。	
7	・世界の言語・宗教と人々の生活	・生活文化の多様性について、宗教、言語分布や人々との関わりを資料から理解し、分布を示す要因を理解する。 ・世界の少数民族、移民、難民の問題を捉えながら、マイノリティなどをふまえた多様な人々に配慮し、自他の文化を尊重する社会の実現を考える。	○			世界の多様性を理解し、異文化を尊重する姿勢が重要性を理解し、資料から世界の宗教分布と特徴を捉えることができる。	授業態度 学習プリント ノート 課題 定期考査
				○		生活と宗教の関連を地域性や歴史的背景から捉え、資料をもとに考察し、難民と移民の問題を資料から捉え、考察できる。	
					○	世界の宗教の特徴をまとめ、身近な地域の外国人の受け入れなどと関連させて追究し、難民と移民の問題構造を調べ、難民問題の解決策を意欲的に探究している。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8 ・ 9	・歴史的背景と人々の生活 ・世界の産業と人々の生活	・生活文化が各地の環境に基づき発達する産業を基盤に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける各産業産業の地域的特徴をグローバル化の観点で理解する。 ・産業と生活文化の関連と産業変化を主題図などの資料を通じて理解を深める。	○			世界の視野からみた産業の特徴と分布を概観し、資料から世界の産業の分布と発達を捉えることができる。	
				○		自然環境が産業の形成に関わっていることを資料から考察し、産業の変化をグローバル化の観点で考察できる。	
					○	身近な商品が世界規模の産業構造に位置づけられることと、産業の発達を時事的話題とともに意欲的に捉えようとしている。	
10	第2章 地球的課題と国際協力 ・複雑に絡み合う地球的課題 ・地球環境問題	・持続可能な地球社会を考えるうえで、地球規模で起きている環境問題は、一国だけで対応できるものではないこと、多面的・多角的に考えていくことが必要であること、自らとかわる問題であることをSDGsをふまえて認識する。	○			SDGsの目標と趣旨を理解し、各種ウェブサイトや資料から環境問題を捉え、原因や影響を図解して整理できる。	授業態度 学習プリント ノート 課題 定期考査
				○		地球環境問題を資料からまとめ、持続可能な社会の実現の提案し、自然を守るための取り組みや具体的な対策を提言できる。	
					○	地球環境問題の理解と、それらが人々の生活に与える影響を意欲的に探究し、どのような行動ができるかを追究している。	
11	・人口問題	・人口が急増している世界の現状を捉えるとともに、人口ピラミッドや相関図などの資料から人口問題の構造と地域差を捉え、人口問題の背景や問題点を整理する。	○			人口問題を理解し、人口増加地域と人口停滞地域の人口問題の違いを整理できる。人口資料をもとにした図版を読み取り分析することができる。	
				○		世界の人口問題の現状を資料を比較しながらまとめ、日本の人口問題についての提言を他国と比較しながら考察できる。	
					○	世界や主要国の人口の推移を捉え、他国の事例を参考にして日本と比較しながら人口問題について意欲的に探究できる。	
12	・食糧問題 ・都市・居住問題	・持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を集め、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から根拠をもとにSDGsと関連づけ対応策を構想する。	○			世界の食料問題を主題図から現状を認識し、その自然的、社会的背景を理解する。	
				○		飢餓と飽食の世界的な分布を資料から考察し、その背景とSDGsの目標をふまえ、具体的な対策を協議できる。	
					○	人口問題と食料問題を捉え、両者のつながりを図表などを用いて意欲的に整理し、国際協力を具体的に追究しようとしている。	
1	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 ・日本の自然環境 ・地震…津波と防災 ・火山災害と防災	・日本列島の地形と気候の特徴と、その多様性から自然の恩恵と自然災害を与える要素があることを理解する。 ・各地の自然災害を理解し、各種災害の具体的な事例を新旧の地形図、ハザードマップ、気象情報、電子地図などを利用する技能と捉える。	○			日本の自然環境の特徴と生活文化との関わりを理解できる。	
				○		日本の自然環境と生活との関わりを主題図や写真から考察できる。	
					○	自然環境の特徴と自然災害とのつながりを意欲的に探究し、過去の災害事例を調べている。	
2	・自然災害への備え	・自然災害はどのような自然環境と関係しているのか、それに対する備えはどのようなか考え、居住地域での防災・減災意識の向上につなげる。	○			災害の特徴、防災への取り組みや課題の理解、ハザードマップを活用し避難行動を考察する技能を身につけることができる。	授業態度 学習プリント ノート 課題 定期考査
				○		自然災害を資料から読み取り、災害時の対策を考察し、生活圏の防災を資料から適切に判断し、課題と避難行動を協議できる。	
					○	GISなどを活用し、自然災害への対策を意欲的に探究し、災害発生時の自助・共助・公助をふまえ、身近な場面を想定して、意欲的に対策を検討しようとしている。	
3	第2章 生活圏の調査と地域の展望 ・生活圏の調査と地域の展望	・日本の地域的な課題について、身近な地域を例に取り上げ、人口の少子高齢化、過疎化を景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身につける。 ・現地調査と資料で得た結果をまとめ、他地域と比較して考察する技能を身につける。 ・調査結果をもとに、地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する。	○			地域的課題の調査法を理解し、主題図に表現する方法と他地域と比較して考察する技能を身につけている。	
				○		調査で得られた結果を、主題図や表などに整理し、地域の特徴や課題を見つけ、まちづくりのプランを構想できる。	
					○	身近な地域の課題を見出し、主題図やグラフなどの資料の作成と調査結果を根拠にした課題解決に向けたまちづくりのプランを検討し、発表できる。	